

「特別記事2」 学生セッション座談会②

前回に引き続き、学生セッションに参加した学生による座談会の様子をお届けします。今回の内容は、「学生セッションを終えて」の感想や気付きについてです。

学生セッションを終えて

司会 まず学生セッション自体について、みなさんがそれぞれどういう感じで発表して、どういった感想を持ったか、ご自由に発言していただけたらと思います。

みなさん手応えはあったのでしょうか。ちなみに（発表の中で論文を引用した研究者が来たという方はいらっしゃいますか。二名うなずいていらっしゃるようです。黄さんと王さんは引用された先生が来てくださった、質問等もしてくださったんですね。差し支えなければ、そのときの印象だとか発表の様子も含めてお聞かせいただけますか。

黄 私は、日本語歴史コーパスを使って「よもや」の使用頻度を論じました。日本語歴史コーパスだと「まとめて検索」機能もありますので、数の多寡だけじゃなくてその機能を使って、どのように使われるのかを、もつとはつきりしたほうがいいというアドバイスをもらいました。

司会 コーパスは今いろいろなたグ、ラベルなどがあって、さまざまな使い方ができると思いますし、検索に関しても、短単位、長単位とか、自身の必要な範囲で調べられますので、その点で有効な使い方をアドバイスいただいたんじゃないかと思えます。その先生の印象はどうでしたか。思

っていたのと違うとか、何かありましたか。

黄 優しかったです。国立国語研究所の おぎそとしのぶ 小木曾智信先生です。

司会 王さんはいかがでしたか。

王 私の場合は前田直子先生がいらして、質問してくださいました。実は十年前にある研究会で発表したことがあって、当時私が発表した内容はシナリオの内容だったんですけれども、前田先生からいろいろアドバイスをいただいて、十年後コーパスを調べてシナリオと比較した結果を今回発表したら前田先生がまたいらして、すごくうれしかったです。質問の内容から、とても興味を持ってくださったんだなと思いました。今回のポスターはどうしても載せられる内容に限界があるので、ポスターに載せていない用例があるかどうかなど、いろいろ細かく質問してくださいってうれしかったです。

一方、他の先生から厳しい質問もありました。それはまさに反省しなければならぬ点でもありまして、自分の研究の意義をもつとまぐ説明できるようにならないといけないんだなというふうに思いました。

司会 前に発表されたときにアドバイスくださったというのであれば、恐らく前田先生のほうもあのときの質問がこういうふうに生きたんだと、うれしく思ってたんじゃないかと思えます。

王 何人かの先生が質問してくださったんですけども、やはり今回は学生セッションという枠なので、先生方の指摘の仕方とかコメントの言い方から、あたたかく見守りながら、こういうふうにしたほうがいいんですよというふうにあドバイスしてくださいだなど感じました。

司会 戸田さんや奥山さんは、発表はいかがでしたか。質疑の様子とか、ご自身の発表の内容でもいいですし、どういった感じ、印象を受けられたか。

戸田 自分語りも入ってしまうんですけども、音声研究の発表というのが、この学生セッションが実は初めてで……。今まで学会は数回ほど出していたきました。相撲を使った日本語教育のワークショップの発表はしたことはあったんですけども、音声分析の発表は今回初めてで、どういったところでコメントいただけるかなと、応募できるというお話を伺った段階で、もうどきどきしながら書類というか、ポスターを作成しちゃったんです。またポスター発表も初めてで、しかもオンラインでの発表。初めてでという感じでやるのかなって、ずっとどきどきしてて。

でも学生セッション向けの講習会を開いていただいて、その中で松浦年男先生（本学会大会委員）が、これはスーパールの試食コーナーと同じですと例えていらつしやって、自分から売り込んで立ち止まってもらうようにやるんだよと。すごいな、なるほどと思いつつ、でも待てよと。それじゃあ研究に関心を持っていただかなかつたら、すぐ見てすぐ帰るっていうことも考えられるのかな、当日あんまり人がいらつしやらないで、一人で発表している時間が多いのかなと思つていたんですけども、多くの先生方や学生のみなさんも参加してくださって、コメントもいろいろいただけたので、ほんとに思つた以上の収穫を得たと思つました。

司会 ありがとうございます。「相撲を使ったワークショップ」が気にな

っているんですけども、それは日本語教育か何かのワークショップで相撲を使うということですか。

戸田 はい。そうです。

司会 折角なので、その相撲を使った研究についてもご紹介いただけますか。

戸田 説明を簡単にさせていただくと、相撲は結構外国、多くはモンゴルとか、今ヨーロッパとか、エジプトから（の力士）もいて、海外からも関心のある日本の伝統文化の一つであると思うんです。例えば CLIL (Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習) であったり、いろいろな文化と日本語教育一対一で行うようなやり方で行われている中で、相撲はあまりそういったものに用いられていなくて、そのとき相撲をどうやったら日本語教育に使えるかなと考えたんです。慣用表現があるじゃないですか。例えば「揚げ足を取る」、「土俵際」とか「大一番」とか「金星^{きんぼし}」とか、色を使ったイデオムもあるんですけど、そういったところで相撲を何かうまい具合に使えないかと。実際に専修大学の海外教育実習というのがあるんですけども、教壇実習のときにイデオムと相撲を合わせて教えたときに、すごくすんなり入ってきたと。やっぱり言葉だけを教えるんじゃないって、その背景に何があるかというのを、いろいろ分かって良かったですというコメントを学生のみなさんから多くいただいたので、その経験を発表したのが相撲と日本語教育という発表です。

司会 ありがとうございます。そちらも興味があるので、ぜひそういった内容でも日本語学会で、発表なり問題提起なりしていただければいいんじゃないかなと思います。

今、戸田さんからポスター発表が今回初めてだったというお話がありましたけれども、それまでに経験のあったのは普通の口頭発表ということ

すかね。今回のポスター発表と比べてみて、どういう違い、どういうメリット、デメリットがあったかをお伺いしてよろしいですか。

戸田 オンラインでの学会に初参加だったので、やはりポスター発表ですと追加資料をお見せできないってことだったり、ポスター発表は普通に対面で行えば、大きいA0とかの版でポスターを作成して見ていただくという中で、今回はA4サイズで作って、やはりどうしても見づらい部分が出てしまう。Pratという音声分析ソフトを使ったんですけども、その画像を載せるときもやはりどうしても小さくなってしまおうというのが、ネックでして。普通の口頭発表でしたらスライド一枚一枚をお見せしながら、テンポ良く話をつなげながらというふうにできる中で、やはり画像を一回一回こーやって力作業でズームしたりとかというのは、ちょっと話の流れ的になかなか難しいことだったなと思いました。

あとは、先ほども申し上げたんですけど、やはり誰がどのタイミングで来るのかというところで、じゃあもう一回発表を始めようというときに、人がうまい具合に多く入ってくれたり、この人って何回聞いてくれたんだっけとか、この人もう一回聞くのかなとか、そういうところの配慮というのが、かなり難しかった印象が残っております。

司会 ポスターならではの利点みたいなのはありますか。

戸田 ポスターの利点で言うと、オンラインだからこそですかね、やはり残って何回も聞けるというのはいいことなのかなと思いました。多分対面でやると「すいません、もう一回お願いします」というやりとりをして、私だったら「もう一回申し訳ないな」と思うんですけども、残れば（発表者が）何回もお話ししてくださるのは、気持ち的に楽だな。また、自分は一回で分からないような人間なので、何回も説明をしてくれるのは、いいのかなと思いました。

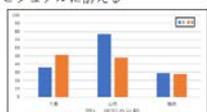
司会 どうもありがとうございます。他の方もぜひ、ポスター発表に関して何かありましたら、ぜひ言っていただければ。

奥山 自分の話ではないんですが、先ほど引用した論文の著者の先生がいらっしやったという話で、私が発表した前の時間のグループの学生セッションを見て回っていて、やはり主要な引用した論文の著者の先生が質問をされていて、それにいろいろと答えながら議論が進んでいるという部屋を幾つか見たんですけども、非常に盛り上がりといいますか、なるほどこういうことだったんですねという気がたくさん生まれているような感じがして。すごくいいものだなと思いました。というのは、私は今回が学会での発表が初めてでしたから、そういう面白さもあるのかと気付いたというところです。

私の発表自体もほんとに多くの先生に、あたたかく質問をしていただいた。位置付けとしてこういうことをやっています、やろうとしていますというふうで、私としては、この後どのようなことに注目して、あるいは注意していけば良いか、こういうものを見てみたいんじゃないかというような助言がいただけるとありがたいなと思って応募したので、まさにそのようなコメントをたくさんいただいたということは、非常に大きな収穫であったのが一つです。それから先ほど戸田さんがおっしゃっていました、事前に講習会を開いていただいたわけです。それでポスターの形式についても、ひな型といいますか、色も三種類あつて大体一ページこれぐらいの行数、これぐらいのポイントだと見やすいですよというお話がありました。実際に発表されたみなさんのポスターが公開されたときに拝見したんですけども、結構やはりみなさん詰められていたというか、一つのポスターが六分割された中に、かなりの行数があつた。それは自分も含めてなんですけど、講習会の中では大体一つのところに、あまり多くのブランチを

白語あきら (大浜大学)
nchi@qa.kelias.education.ac.jp

ポスターテンプレート

<p>① このテンプレートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Powerpoint for Macで作成 <ul style="list-style-type: none"> □ フォント設定が楽ならごめんなさい □ 図形や余白の融通が利きやすいです ■ 色を工夫してください <ul style="list-style-type: none"> □ ホームの「レイアウト」に3色ほど用意しました □ 同系色を組み合わせるといいです 	<p>② ポスター作成のコツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 箇条書きを使用 <ul style="list-style-type: none"> □ 概要をざっくり □ トークで補うイメージ ■ 一方、文章をたくさん書くという人もいます。 <ul style="list-style-type: none"> □ 「ポスターだけで十分説明する」ためにそうするケースがあるのかと。 	<p>③ 図表を入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビジュアルに訴える 
<p>④ 階層を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 重要な情報 <ul style="list-style-type: none"> □ 細かい情報 □ 具体例とか ■ 大項目は2つが限界？ <ul style="list-style-type: none"> □ 3つはけっこう詰まる □ 窮屈感が出ないようにする 	<p>⑤ 読みやすく</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 番号付けをする ■ フォント <ul style="list-style-type: none"> □ 視認性の高い、メイリオ、游ゴシック、Macならヒラギノなどがいい □ フリーではNoto Sans CJK JPも ■ レイアウト <ul style="list-style-type: none"> □ 余白があった方が強れませんね 	<p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ このファイル <ul style="list-style-type: none"> □ 2ページ目=サンプル □ 3ページ目=空のテンプレート ■ 今後はぜひ「研究発表」もお願いします

ポスターのテンプレート（日本語学会 HP 上にて公開）

立てないほうが見やすいですよという話があったんですけども、どうしてなかなか追加資料の制限等もあって、みなさん細かいことを書かれていたという印象を持っています。

実際には六ページあって、それをスライドに切り替えられるようにして、大きくするのが良いというお話でしたので、そこまで見にくいということはなかったと思うんですけども。あとは講習会で、これも松浦先生が繰り返して、「とにかく楽しみましょう」ということを、おっしゃっていたのが非常に印象的。私も初めての場で緊張がもちろんありますし、楽しくという気持ちを持つという発

のか、そしてどのタイミングで「ではもう一度発表します」というふうにすれば良いのかということで、実は私は一時間の中で二回しか発表していませんのですけれども、事前には大体五〜六回ぐらいは発表するよというふうに言われていたので、他のみなさんがどれぐらい何回分ぐらい発表されたのが気になるところです。

やはりどこまで細かく出すか、どこまで用例等を載せるかというところのバランスの取り方、難しさをみたいなのは感じたというところですね。
司会 ありがとうございます。みなさんどうですか。今奥山さんがお聞きになったように、学生セッションはコアタイムが六〇分ですね、その間にみなさんどれぐらい、何回ぐらい発表されましたか。

戸田 私は五回ほどしました。発表時間が一回何分か、質問がどのぐらい入ってきたかによって変わるんですけど。やっぱり最初のほうと後のほうで入ってくる人数も違いますので、最初のほうはペースが早く、一回、二回、三回と続きました。確か三〇分ぐらいだった後に、多くの先生がちょうどいらっしやってくださり、質疑応答も多く二回しか後半はできなかったんですけども。

黄 三〜四回でした。受け取った質問に基づいて、次に発表するときにはちよつと視点を変えて、違う内容を補足しながら発表しました。

王 私も三〜四回ぐらいだった気がします。質問が出なくなったら、「ではもう一回説明させてください」みたいな感じでやりました。発表しながら難しいなと思ったのは、普通の会場のポスター発表だと来場者が来ていてというのが、視覚的にすぐ捉えられて、来場者の方の顔もその場で覚えられますので、新しく来た方が多ければ、もう一回説明するというように進めやすかったですけれども。正直オンラインではなかなか難しくてもう発表の内容で頭がいっぱいの状態では、参加者リストが表示されてい

想がそれまでなかったものですから。そういう心構えでやってみると、終わってみると確かに自分の発表に対してコメント、指摘をいただいているほどと思う、その感覚というのは確かに楽しいということなんだろうということが、実感できたという点で、非常に学生セッション、ポスター発表という形式も合わせて自分としては楽しかったと実感しているところ

す。
オンラインというところもあって、やはりどなたが聞きにいらっしやる

てもなかなか覚えられなくて、申し訳ないという気持ちはありました。

司会 その辺りはすごく難しいところですね。みなさん移動のときは、基本的にはカメラオフにされているので、誰が入ってきたか、どなたがさつきいらっしやったのかというところは、やはり把握が難しかったかと思えます。その点は今後の課題にしていきたいと思います。

応募のきっかけ、発表準備について

司会 今、発表自体についていろいろお話しいただいたんですけど、ポスター作成のときの大変さ等についてもお話を伺いたいと思います。準備段階で何か困ったこととか、先ほどあったように講習会があつて助かったとか、何か準備段階で思ったことがあれば、ぜひ教えていただきたいんですが。あと、ぜひどこで学生セッションを知ったのか、どなたに教えてもらったのか等々、いかがでしょうか。

王 私は指導教員の石黒圭先生に勧められていて、自分自身も大きな学会で発表したいというのがありまして、良い機会だと思つて応募させていただきました。

戸田 私も同じく指導教員の王伸子先生から、松浦先生の Twitter に（情報がある）というお話をいただいて、そこから松浦先生の Twitter を確認するようになって、参加したんです。松浦先生が講習を行う前に学生セッション向けのポスターを作ってみたというツイートをされておりました、確認したら、先ほど奥山さんがおっしゃっていた六分割されたスライドの例、ひな型を載せていたので、じゃあこのとおりに作ってみようというふうにやりました。ですが、初めてのポスター作成でどのぐらい文字が見えるのかとか、やっぱりパソコンのモニターの大きさによって異なると思い

ますし、目の良さ、めがねをかけている、かけていないとかで見やすい、見づらいというのも考えられますし。また自分は音声分析を行ったので、どういうふうに音声載せればいいのかといった、そういった細かいところから分らない、どうしようかなと考えていたときに、講習をしますという連絡をいただいて。講習は、この学会だけで使えるというわけじゃなくて、他の学会でもこういった形式は考えられるので、ほんとに先へつながら、まさしく学生セッションの旅立ちという部分でのほんとにいい場所だったなと。私がそういうふうにご利用させていただいたので、講習会を含めてほんとに良かったと思います。

黄 九月末に論文一本を投稿しようと思つていたのですが、そのときは自分の研究がどのように位置付けられるのか、研究の目的と意義がはっきりしていなかったので取り下げました。日本語学会の学生セッションの発表に参加することで、自分の先生だけではなく、学外の方からもアドバイスをいただきました。

奥山 学生セッションの存在自体は、私の研究室の博士課程の先輩から、院生全体に共有されました。発表の準備段階ということですと、そもそも自分の研究内容は卒業論文の延長という位置付けにはなるんですけども、スライドにまとめて視覚情報を使って、誰かに発表するというのが初めてだったということもあつて、発表練習のようなものを院生の先輩方や同期にお手伝いいただいたりということをしました。繰り返しになりましたけれども、ポスターの作成等においては、やはり講習会の存在が大きかったかなというふうに思いますし、今日ここにいらっしやっていない他の学生セッションの発表者の方の様子を見ていても、やはり講習会があつて安心したというような、そういう雰囲気を感じております。

司会 ありがとうございます。講習会はみなさん全員参加だったんですかね。(参加者うなぎ)なるほど。みなさん参加されて、松浦先生のアドバイスをいただいたということですね。

奥山 そうですね。予定が合わない方のために、録画したものを後で公開という形式を取られていたかと思えます。

司会 何か助けになったところがあつたのであれば、学会としてもありがたいかなところですよ。

みなさん、初めてだったり、ポスターにまとめる機会がなかったところが、やはり大変だったのかなという気がします。その点については、講習会等引き続き学会のほうでもサポートできたらと思っています。

今後応募する人へのアドバイス

司会 今回、準備段階から大会当日まで、かなり一生懸命まとめてやっていらつしやつたと思うんですけども、次回以降に学生セッションを続けていくときに、今後応募する人たちに対するアドバイスのものがあれば教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

戸田 日本語学会というとても大きな、歴史のある学会での発表だったので、最初は私が応募していいのかと。こんなほんとと研究を始めてまだ修士二年目で、修士に入学したと同時に研究を始めて……。実は学部時代は商学部に在籍しておりまして、全く違うことを勉強して、修士へ入学というかたちだったので、こんな二年目のペーパーの私が、研究に対しての関心はもろろ人一倍あるというふうに自信がありましたけれども、やっぱり周りにはもっとできる人がいる。相撲とまさしく同じで、上には上がいるということなんですけれども、そういった人がいる土俵の中で、私もそ

れに出ているのかという思いがとても強かったです。

けれども実際に参加してみて、先ほど王さんがおっしゃっていたあたたかい言葉をいただけた。もっと怖いのかなというふうに思っていたのが正直なところなんですけれども、あたたかい言葉を多くいただけて。私自身もこの先どうしよう、この先どういうふうに研究を進めていこうかなというふうに考えていたんですけども、多くのアドバイスをいただいて、研究の方向も無事、定まってきました。ほんとに研究をされている、また、今後に関心のある方は誰でも参加してほしいというか。こんな私でも参加できたぞという意見です。

奥山 私もむしろ参加しないほうがいいという対象が思い浮かばないぐらいです。ほんとに良い経験になるということとは間違いないと思いますし、自分自身終わってみてものすごく視界が開けたという感覚を持っています。ほんとに迷っていて、どうしようという段階であっても、ある程度こういうことがやりたいんだということがつながつていけば、むしろまだかたちが十分にできていない段階であっても、もちろん最低限の条件は必要だと思えますけれども、今後の方針という点で、やはり普段指導教員の先生とか、周りの方以外の、特に専門分野に近い先生方からコメントをいただけるということ。ほんとに今まで考えもしなかったような視点が出てきたり、いろんなことが期待できると思うので、ぜひ私としても自信を持つてというのであれば、勧めていきたいと思う、そういう企画だったと思っております。

黄 学会発表に参加するには、主指導教員と副指導教員に確認を取るのですが、私が今回副指導教員からもらったメールには、黄さんが今回の発表でさまざまな方からいただくであろうご指摘を踏まえて、今後本格的な成果を発表できるように考えてもらいたいと思っておりますという内容があ

りました。学生セッションは個人の発展だけではなくて、必ず日本語の研究に役立つものだと思います。学生セッションという枠があるということ、多分いろんな若手の研究者が何をやっているのか、みんな分かりますのでほんとに良かったと思います。

王 今回私の一橋大の同期も学生セッションで発表しているんですけども、後輩たちにも勧めたいなと思いました。先ほど戸田さんもおっしゃったんですけども、いきなり大きな学会で発表するのはなかなか勇気がないので。

今回、講習会まで開催してくださるとは、正直予想していませんでした。発表経験が少ない人にとって、発表って自分から学会の門を叩きに行くというようなことでいろいろ不安が多いのですけれども、今回はそうじゃなくて、学会が門を開いてあたたかく迎えてくださったというのをすごく感じました。それは多分初めて発表する人とか、研究会でしか発表したことがない人にとっては非常にありがたいことだと思います。いろんな先生が集まる学会なので、学際的な研究をやるうとしていてる人にも勧められるんじゃないかなと思います。

学生セッションの改善点

司会 予想したよりもポジティブな反応をもらえてすごくうれしく思っています。特に奥山さんは先輩から情報をもらったということをおっしゃっていたと思いますけども、今後みなさんがもし良いと思ってくださったら、今度は後輩方にこういうことあるから、自分もやっただけでいいよみたいに広めていただけると、われわれとしてはうれしいなと思います。

学生セッション(前半)	[一般のポスター発表と同時開催]
G-1 能動・受動の対立に影響する要素とそのメカニズム —意味論・統語論的要素を中心に—	
G-2 類別詞「個/つ」と空間詞を用いた表現の意味分析	
G-3 副詞的に使用される「普通に」の諸相 —コーパスを用いた用例分析から—	
G-4 日中同形同義語における主語名詞の相違 —主語名詞と文構造のマッピングによる相違を中心に—	
G-5 中国語を母語とする日本語学習者の複合和製英語の意味推測に関する研究 —日本語語彙知識から見る—	
G-6 構成要素から見たサヨウナラ(バ)の展開	
G-7 中国語を母語とする学習者の副詞「やはり」の使用変化 —B-JASインタビューデータの調査を通して—	
G-8 近代演説資料における文末断定表現変遷の概観	
G-9 ネパール人日本語学習者による母音の生成 —日本語とネパール語の違い—	
学生セッション(後半)	
G-10 中国人上級日本語学習者における外来語単語の視覚的認知 —音韻類似性と文脈を操作した実験的検討—	
G-11 神奈川県三浦市方言のアカトンボについて	
G-12 著名人インタビューにおけるインタビュアーの「聞き方」 —音声に着目して—	
G-13 北海道の挨拶行動の地域差 —都市性および生業の観点から—	
G-14 キャラ語尾「であります」の統語機能の多様性について	
G-15 副詞「よもや」の変遷 —意味及び共起する文末形式の観点を中心に—	
G-16 無アクセント方言における韻律句のつくりかた —宮崎県椎葉村尾方言の統語構造と情報構造に着目して—	
G-17 『日本語日常会話コーパス』における使役表現の使用実態 —テレビドラマのシナリオと比較して—	
G-18 韓国人留学生の母語場面におけるトランスランゲージング	
G-19 発表挨拶等で用いられる「みなさん」の音声分析	
G-20 役割語における人物の性格を表す言葉遣いについて —アニメーションシリーズの人物紹介文の記述と発話から—	
G-21 漢語「透視」の展開	

※ 学生セッションは、「コアタイム」1時間、「フリータイム」15分という枠組みで実施されました。「コアタイム」は、通常のポスター発表と同様、発表者によるプレゼンテーションと質疑応答です。「フリータイム」は、発表者から参加者に質問をしたり、より自由なやりとりをしたり、他研究者との交流・意見交換の時間です。

既にコメントいただいていますけども、学生セッションは一回目なので、ここがもうちよつとこうだったら良かったんだけどな、この点が困ったんだよねみたいなことがあれば、ぜひ教えてほしいなと思っています。ささいなことでも結構ですの。

戸田 こういうことをしてほしいというよりは、来年参加するみなさんにといいところ。もし自分が来年第二回の開催への参加ということ、どうしてほしいかなと考えたときに、オンラインでポスター発表というところが初めてでしたので、多分個人情報とか、そういうところいろいろ難しいところはあるとは思いますが、録画をして、参加意のある方だけに見せられるようなコミュニケーションを作成して、そういった動画を流して、

こういうふうに学会ポスター発表するんだよとかたちで。今回のようにポスター作成しましょう、こういうことを載せましょうだけでも確かに十分分かりやすいんですけども、実際やってみてこういうところが違ったとか時間配分とか、参加者がどのくらい来たとか、質疑応答がどのくらい来たということも、想定できないことも多いと思うので、難しいとは思いますが、実際の学会の場を見せられる環境があったら、私はうれしいかなというふうに思いました。

司会 ありがとうございます。他の方で何かお気付きの点等ありますかね。せっかくの機会なので、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。

奥山 今日ここに参加しているみなさんは、後半のほうの方だと思うんですが、前半のほうのセッションは同じ時間に（一般の）ポスター発表があったかと思えます。それで私もそれを行ったり来たりしていたんですが、やはりどうしてもポスター発表に集まっている人数が、かなり多かったように見受けられます、学生セッションの中には、ある時間帯に三人しかいないみたいなの部屋があったかなと思います。

一方で後半のほうは全員が割と満遍なくというか、聴衆の方がいたよなふうに思うんですね。時間的な割り振りという点で仕方ないところだと思わなければならない、学生セッションの後半が始まるときも、結構ポスター発表では、後半のコアタイムが始まって、まだ結構な方がポスターの部屋にいらっしやあって、なかなか人の集まりが悪かったところもあったよな記憶があります。なので、コメントをいただける人がなかなか集まり

にくいという点で、ちよつと前半と後半の差ができてしまったのかなという点は、ちよつと感じました。

司会 ありがとうございます。次回以降しっかりとスケジュアリーングに關しては検討したいと思えます。

王 一つお伺いしたいんですけども、今回私たちが発表用に作ったポスターは、ウェブで公開されるんでしょうか。

司会 資料として会の最中は公開されましたけど、その後は、公開されません。公開してほしいという要望ということですか。

王 自分のためにというよりは、今後の学生セッションの発表者のみなさんのために、例えば過去にこういうようなポスターが作られていて、自分のスタイルに合わせて作るというんですけども、そういう情報もウェブ上で公開されていけば、応募しやすくなるんじゃないかなと思います。学生セッションの発表の具体的なイメージがつかめますので、いかがですか。

司会 戸田さんのコメントにもあったように、前例ですよね。これまでどういうふうに発表されているのかというのは、これから発表しようという人は知りたいと思うので、一律じゃなくて許可を出してくれている人だけでも、こういう感じですよというのをポスターの PDF なり、できれば動画なり、出していけるといいのかなと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

（次回に続く）

次回がこの座談会の最終回です。今回は、「大学院生活と進路」というテーマで、四名の参加者に話していただきます。次回の更新をお待ちください。